

全国の大手製材工場と生産連携

瀬崎林業

梱包材問屋としてチリ産材、国産材、中国産ポプラLVLなどを販売する瀬崎林業(大阪市、瀬崎民治社長)は、全国の製材工場と連携して国産材の梱包用製材体制を作り、梱包材市場で使用が広がってきた杉梱包用材の需要にんでいる。九州、四国、関東などの大手製材工場15社を中心に、複数の小規模工場とも連携。各工場とも通常は構造材の製材工場であるため、丸太は構造用製材に使用する良質材であるうえ、製材機械も構造用で精度が高く、梱包用製材の仕上がり品質に優れる。全国の工場で生産する梱包製材は月間1,200~1,500m³で、同約1,000m³を販売する。樹種は杉を主力とし、必要に応じて他樹種も取り扱う。各製材工場には同社が希望する製材サイズを提示し、連携工場同士が競合しない工夫を施している。

同社は約2年前から国産材の梱包用製材品取り扱いに力を入れ、製材工場との連携体制構築を進めてきた。同社が定期的に一定数量の梱包製材を買い取ることが、製材工場の安定した売り上げにつながっている。

中国・台湾向け国産材丸太の輸出も手掛けていることで、小手製材工場に丸太の供給ができることも同社の強みだ。丸太を販売し、製材後に買い戻す仕組みだが、これまでの国産材の取り扱い実績と丸太確保に苦戦する小手工場への供給力は、製材業者からの信頼という形で表れている。

主力のチリ産材、国産材、米材と梱包用製材品の月間販売量は約9,500m³で日本屈指。国産材は、定尺サイズを得意とするチリ産材では賅いきれない特殊サイズに対応することも多いため、チリ産材との住み分けが果たされ、チリ産材・国産材ともシェアを底上げできる。製材工場からは梱包製材の将来性も期待されており、同社は連携工場の増加と製材・販売量の拡充を見据えている。◆